

土佐の南国ルネサンス構想

12



稲吉のごみステーションにかかっていた看板。遅々しい顔付きのカエルが、ごみ袋を両手に持ち、あわてています。ルールを守ってごみを出せば、「きれいなまちに よみがえる」とのことですが、このカエルの絵柄と場所、コメントがミスマッチのようで、妙な雰囲気を醸し出していました。

何気なく通り過ぎると大したことはない看板かもしれませんが、一度目に止まるとなかなか味のある作品だと思います。



絶えず点検・評価を

▼南国ルネサンス構想も今回が最終回ですね。

最終的には、土佐のまほろば・南国ルネサンス構想になりました。

キャッチフレーズが多すぎるという批判がありました。が「元氣・やる気・本気のまちづくり」人が輝き・まちが輝(きら)めく副県都・南国市をめざして、土佐のまほろば、あつたか南国市一などです。

▼「超多忙」な社会です。から、キャッチフレーズで南国市の目指す方向がそれとなくわかるという方法も面白いと思うけどね。

お役所の計画、ではなくて、市民の計画にしたかったという意図はありますね。とかく、総合計画というのはウンウンと汗を流して苦勞して作成し、できあがったら方々、机の引き出しの中で眠る、というのが一般的でしたからね。何年もかけて資料を集め、分析し、現状と課題を

明らかにして、将来を展望するというパターンですね。

▼それも大切なんです。そのことに日時をとっている、世の中は駆け足で進んでいますからね。

そうなんです。だから、南国市の置かれた現状を認識するに共に時代認識をちゃんとして将来像の大綱を決める。大綱が決まったら、その方向で施策の基本的な目標をつかむ、という方法をとりました。あとは、定期的に点検と評価をして、新たな発想や時代



の要請を的確に反映させる努力をしていくことなんです。決めたから、とコンクリート化しないで柔軟な対応が大切ですね。

▼総合計画を、パイプルの存在にして、いつも手元に置いて行政に生かしていくことですね。

。マルチメディアに関する具体的な施策は入っていないんです。二〇一〇年には各家族が光ファイバーで結ばれ、双方の通信ができる、情報スーパーハイウェイの時代が来るといわれていますね。最近、県が地域情報化計画をつくりました。これなんかも来年の見直し時期には検討課題の一つになりますね。

時代はどんどん進んでいいますから、ついていくのが大変です。

実行には創意工夫を

▼ついて行くんじゃなくて、時代を先取りしてほしいもんだね。(笑)

口で言うのは簡単ですが、

2月9日付けで、大町行治前市長から退職金請求権放棄の届けが提出されました。それと合わせて市民の皆様に対しては、次の通り、あいさつが書面で目きました。

ごあいさつ

今日、2月9日で私の裁判が確定いたします。このさい、私自身感ずるところがあり、家族とも相談の結果かねてより考えていた通り、退職金受け取り辞退の意思表示いたしました。改めて、市民の皆様へ深くお詫び申し上げます。市長在職中に数々の御支援、御厚情をお寄せ頂きました皆様方に感謝の気持ちで一杯です。誠に、有難うございました。

平成8年2月9日

大町 行治

●同和問題Q&A

はじめに

同和教育シリーズ

「差別のない明るい社会」を目指して、「社会同和教育地区懇談会」が市で行われるようになってから二十四年になります。その後、同和と教育推進講座(六講座)全市民対象、各地区公民館同和と教育推進講座(四講座)、また最近では、PTA同和と教育推進講座など、さまざまに

疑問に答えて

その学習のなかで、多くの疑問や意見も出されました。そのなかには、いまだに残っている偏見や誤解など、考えていただきたいものもたくさんありました。

取り組みがなされてきました。これらの取り組みで、多くの市民の皆様に参加していただき、学習をしていただきました。参加された人たちは、正しく同和問題を学ぶことができたと思います。

そこで、今回から、そのような疑問にお答えするシリーズを企画しました。ぜひ目を通していただけ、考えていただきたいと思えます。

Q&Aで取りあげる項目

■差別、差別と言っけれど、差別はもうないのではないのか?

■何も知らない子どもたちに同和教育をすすめるから、差別がなくならないのではないのか?

■最近同和地区はかり良くなって、地区外は少しも長く

現実を厳しいですね。それに官公庁は、小回り、がききにくいもんです。職員の意識改革も求められていますね。▼マルチメディアもそうなんです。やらたらカタカナ語が多いですね。そうなんです。市の課長さんからも、市民からもカタカナが多いという意見がたくさんありました。ルネサンス、キーワード、イメージ、コミニュケーション、ゴールドデン、ライオン、ライフ・ス

ページなど、ずいぶん多い感じになりますね。ボランティア、ネットワーク、キャッチ・フレーズなど一般的になったものもあります。パソコン、ワープロなどの世界になるとほとんど、カタカナの世界です。▼漢字でも、煌(きら)めくとか、劇生、集積、拠点など結構ありますよ。役所言葉もありますしね。

言葉、官庁用語、も残っていますか? ▼計画は計画としていいんですが、実際はどのように実践していくかですね。中期の財政計画のもとに着実な実行が求められます。職員も有利な財源確保に頭を使っほしいですね。少し財源の口で実施していくためには創意と工夫、知恵を使うことですね。市民と一緒に進めていきたいと思えます。(完)

ならない。これは逆に私たちが差別されているのではないのか? ■私は差別したことなんか無いのに、なぜ、同和問題を学習しなければならぬのか? ■同和地区の人ひとの生活態度に問題があるから差別されるのではないのか? ■人間には、競争心や優越感があるから、差別はなくなるのではないのか? ■同和地区の人たちが入っている住宅の家賃は非常に安いとか、誰でもただで運転免許

が取れると聞くが? ■私たちはこのように学習しているが、同和地区の人たちも少しは学習しているのか? ■何かあると「差別、差別」と言っ問題にする。気にしすぎではないか? ■同和地区の人たちは朝鮮人の子孫だと聞いたが...

